

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	鳥取県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	北条町立北条小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	3	3	2	20	27
児童数	85	78	92	82	84	91	5	517	

研究の概要

1. 研究主題

<p>心豊かにたくましく生きる児童生徒の育成 ~小・中連携を通して学習の礎を築く~ *テーマ設定の理由 (1) 義務教育で身につけさせたい学習の基本的な力と相手の立場に立って考え、行動する力を身につけさせれば、児童・生徒が生涯学び続けようとする礎を築くことができると考えた。 (2) 小・中の教師が、相互に教育実践の一部を理解し合い、合同の連絡会・催し・交流授業などを実施すれば、教師の学習指導の改善につながり、上記(1)の学習の基本的な力がついていくと考えた。 (3) 小・中連携をすれば、相互の学び合いが広がり、学び続ける力につながると考えた。</p>

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>(1) 実施学年・教科等 少人数指導(算数科)3、4、5、6年 小・中連携 ・小・中交流授業 ・総合的な学習の合同発表会 ・読み聞かせ隊 ・小・中同日公開参観日 独自の取り組み 「伝え合う力」の育成 ・国語科 ・朝読書 ・スマイルタイム(音読集会)</p>
--

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ「小・中連携を通じた取り組みを試みる」 仮説 さまざまな交流の試みを通して、教師側の意識変革を図ることができるであろう。 研究内容・方法 1 少人数指導の工夫改善(基礎的な力をつけるための細やかな指導) 算数科を中心として 実施学年3~6年 (1) 目的 算数科における少人数指導を通して、個に応じたきめ細かな指導をすることにより、児童一人一人がよくわかり、よくできるようになったという充実感を味わいながら、基礎的・基本的な内容を身につけるような学習指導で、数学的な考え方ができ、発展的に問題解決ができる児童を育てる。 学習したことを生かし、表現活動や総合的な学習などで数学的な考え方ができ、発展的に問題解決ができる児童を育てる。 (2) 方法 担任と少人数担当者の計2名で少人数指導をする。</p>
--------	--

新しい単元に入る前に、児童の今まで学習した内容等の理解度を把握し、グループ分けに役立てる。
単元の後半が終わった段階でコース選択を行い、個に応じた「学び直し」の時間を設定する。

基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るため、繰り返し学習をする。

- ・繰り返し学習・・・数学的な考え方や数量、図形についての知識・理解を確実にするため、作業的、体験的な活動をする。
 - ・繰り返し学習・・・計算の技能が身に付くための活動をする。
- 教材研究や授業づくり等の打ち合わせ時間を作り、担任と少人数担当との連携を密にする。
学習ファイルなどを作成し、児童一人一人の学習の様子を把握していく。

(3) 形態

基本的には、1学級を2つに分けて指導する。単元によっては、一斉やT・Tでする場合もある。

グループ分け

- ・等質・・・一人一人のよさを生かし、教え合いや高め合いができる。
- ・興味・関心・・・資料集めなど、活動に関する目的意識を持たせることができる。
- ・習熟度別・・・数と計算領域が適している。小テストやアンケートなどを用い、子どもの反応で分ける。

2 小・中連携

(1) 小・中交流授業

中学校から小学校へ 図工・英語・音楽(10月、2月)

小学校から中学校へ 学活・理科・音楽(10月、2月)

(2) 総合的な学習の合同発表会

中2と小5「福祉」(10月)

中1と小4「米作り」「国際交流」(2月)

(3) 読み聞かせ隊

中学生のボランティアによる活動(月1回:朝読書の時間)

(4) 小・中同日公開参観日(10月)

(小・中同じ時間に公開することで、より多くの保護者や地域の方の理解を得ることを目的としている。)

3 独自の取り組み

(1) 豊かな表現力の育成<国語科を通して>

基本的な考え

- ・5つの言語意識を位置づけた学習を工夫し、一人一人の子どもの思いや願いを大切にすることにより、伝え合う力を育てる。
- ・いろいろな学習方法を知り、目的によって学習を選択できる力を身につけることで、豊かに表現する力を育てる。
- ・他教科、道徳及び特別活動、総合的な学習との関連を図りながら、単元を見通した学習の流れを工夫することによって、「生きて働く国語の力」を育てる。
- ・基礎的・基本的言語能力を育てる支援や、一人一人のよさや可能性を生かした評価の工夫をすることで、自分の思いや考えを豊かに表現する力を育てる。
- ・言語環境を整えることにより、より主体的な学習意欲や豊かな表現力を身につける。

取り組みの実際

- ・子どもたち一人一人が主体的に取り組む学習づくりや、思いや願いを自分の言葉で考えたり、表現したりすることができる能力を育てることによって、自分のよさや可能性を存分に発揮し、生き生きとした学習展開ができるように、全クラスが研究授業を行い、授業改善を図っている。
- ・相手意識や目的意識をはっきりと持つことで、子どもたち自身が話すことに必要感を持ったり、聞く意義を感じたりしながら学習することができ、意欲的に活動する子どもが増えてきた。また、国語の時間に学習したことを異学年や幼稚園児、地域の人などに伝える活動を通して、人前で発表する力や自信が少しずつ芽生えつつある。

(2) 朝読書

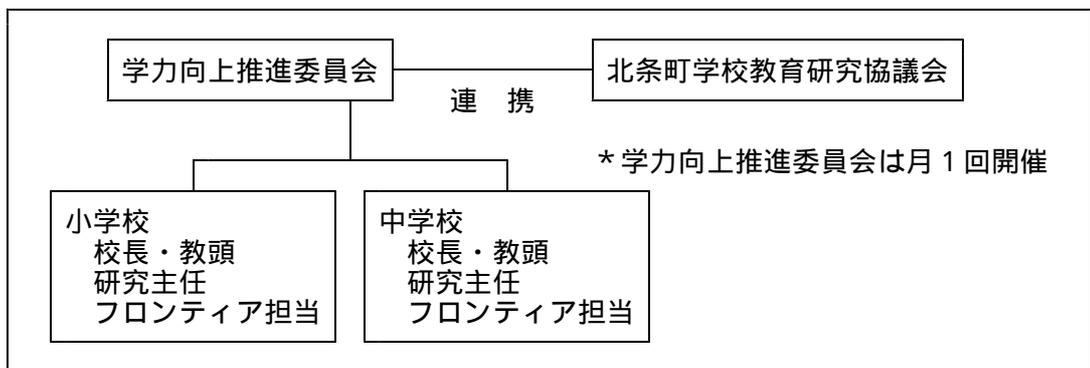
「朝の読書」の4原則

	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなでやる 児童全員、教師全員、同じ時間に同じ条件で取り組む。このことが、どんな児童もこの雰囲気の中にひきずりこんでしまう大きな要因の一つとなっている。軌道に乗るまでは、細心の注意を払って子どもたちの様子を観察し、的確な指導をするよう心がける。 ・火・木の朝 1日15分間行う。 8：20分までに読む本を決めておく。 ・好きな本を読む（漫画・雑誌以外） 好きな本を読んでよい。 自分の好きな本を自分自身の力で（あるいは友達同士の協力で、あるいは家族や教師との共同作業で）みつける。 ・ただ読むだけ 感想文や記録のたぐいはいっさい求めない。 中学生の「読み聞かせ隊」による朝の読み聞かせ 地域の読書ボランティア「つくしんぼの会」の方々による読み聞かせ 級外職員による読み聞かせ 朝読書の実践により、物の見方、考え方の高揚や、交友関係の広がりなどが見られるようになった。 (3)スマイルタイム（音読集会） ねらい <ul style="list-style-type: none"> ・ふだんの学習とは異なる条件（広い場所・大勢の前・他の学級の友達）のもとで、のびのびと音読や暗唱をしたり、自分の考えや思いを伝えたりする機会を設けることにより、よりよく伝えようとする意欲や伝えることができるという自信を持つことができるようにする。 ・いろいろな人の音読や暗唱・スピーチなどを聞いて、そのよさに気付き自分の言語活動に生かそうとすることができる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>みんなの前で読んでにっこにこ！ 話し手にっこり！ 友だちの音読を聞いてにっこにこ！ 友だちの話聞いてにっこり！ こんなスマイルタイムに！！</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・聞くときのめあて ・友達のよいところを見つけて聞こう。 ・読む人・話す人のめあてに気を付けて聞こう。
--	---

平成15年度	<p>テーマ「小・中連携を通じた取り組みを広げる」 仮説 教師の意識改革が進み、広がることにより、学習活動に対する児童生徒の意欲が高まり、学び合いが広がるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 1 少人数指導 算数科を中心として（3年生以上） よりよい少人数授業の工夫改善に取り組む。</p> <p>2 小・中連携 交流授業 教科を広げ、T・T指導も取り入れる。 算数・数学（6月、10月） 英語・ローマ字（6月、12月、2月） 総合的な学習の合同発表会 交流学年を広げ、伝えることを意識した発表やまとめかたの方法を工夫する力をつける。小4年と中2年（10月） 読み聞かせ隊 異学年、異年齢の活動を取り入れ、相互交流をする。（中学生の読み聞かせ月1回、小学生から幼稚園児へ） 同日公開参観日 幼稚園・小学校・中学校（10月） 相互授業参観 授業参観と授業研究を実施する。（校内研究会を実施するときには互いに連絡をし合い、授業や研究会に参加する。研究会を通して、互いの指導法を学び、児童生徒の学習習慣の定着を図る。）</p> <p>3 独自の取り組み 豊かな表現力の育成＜国語科を通して＞（11月研究発表会の開催） 朝読書（月、水、木）多様な方法を取り入れ、読書の楽しさを体得させる。 スマイルタイム（月1回 学年、交流学年）</p>
--------	--

平成 16 年度	<p>テーマ「小・中連携を通じた取り組みを深め、まとめる」</p> <p>仮説 学習の基礎的な力や、相手を思いやる心が育ち、それが、教師、児童・生徒共に、生涯学び続ける礎となるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 1 少人数指導 算数科を中心として（3年生以上） 少人数指導の工夫改善を深める。</p> <p>2 小・中連携 交流授業 総合的な学習の合同発表会 読み聞かせ隊 異学年の相互交流を深める。 同日公開参観日 地域啓発につとめる。 相互授業参観</p> <p>3 独自の取り組み 豊かな表現力の育成 朝読書 スマイルタイム ～ 15年度の成果と課題を検討し、取り組みをより深める～</p>
----------------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

<p>1 少人数指導</p> <p>学習計画を工夫することで、児童が学習の見通しをもち、意欲的に学習取り組むようになった。「今日の学習」として「\cdot」を書き入れ、自己を振り返ることにより、学習の成果が把握しやすくなった。</p> <p>連携メモにより、打ち合わせの時間が短縮でき、持ち物や宿題の確認もしやすくなった。</p> <p>100マス計算により、基礎的計算力の習熟を図ることができると共に、学習のはじまりがスムーズになり、児童の集中力も身につけてきた。児童自身が計算力の向上に前向きになり、楽しみながら取り組むようになってきた。低学年にも取り組みが広がっている。</p> <p>+・×の3種類の百マス計算を1種類ずつ、1週間をサイクルとして、ほぼ毎日行った。はじめは、5分以上かけても進まなかった児童も、現在では3分以内に終わるようになり、計算に自信をつけてきた。毎日の計算の積み重ねが、学習意欲の高揚につながっている。</p> <p>発表の機会や、教師とのコミュニケーションが多くなり、算数を苦手とする児童が少なくなってきた。また、買い物や、食事などの場面で、算数の学習内容を生かしており、さらに、使ったり、広げたりしようとする児童も多く見られるようになった。ノートの使い方についても意識するようになり、図やメモなど書き込み、思考の跡がみられるようになってきた。</p> <p>少人数指導の形態の長所、短所を出し合い、学年や単元の特徴を生かした、よりよい形態を取り入れて指導していくように話し合い、担任との連携が深ま</p>

ってきた。
 2 小・中連携
 教師相互の交流授業により、授業に対する教師の意識改革が芽生えた。
 異学年との交流により、児童の意欲が高まり、相手のことを考えた発表
 や説明に自信を持つようになった。
 地域の人、地域のことに気づき、また、それらの良さを知る機会が多くなっ
 た。
 広報活動、参観を通しながら、保護者への啓発を行い、関心が高まってきた

2. 今後の課題

1 少人数指導
 2年間で試みた方法を見直し、授業展開や指導方法の工夫改善に、全職員で
 取り組めるようにするための体制づくりの検討が必要である。
 少人数指導や T・T などの指導方法を継続しながら、研究をさらに深め、子
 どもたちへのきめ細かな指導を図りたい。
 家庭での生活習慣が学力に関係があることを啓発し、家庭生活を見直すと共
 に、生活のリズムの確立を図るよう、保護者によびかける。
 2 小・中交流
 交流授業の教科を広げ、教師の授業への意識改革をし、授業の充実を図るこ
 とが必要である。
 児童生徒の相互交流を広げ、相手を思いやる心を育てていきたい。
 相互の研究体制をより充実していく必要がある。

学力等把握のための学校としての取組

目的 小学校の学習指導要領において身に付けることが求められている資質や能力
 が、どの程度身につけているのかなどの基礎学力の実態を把握し、結果の分析・検
 討を通して、児童の確かな学力の定着、教員のよりよい指導への手がかりとする。
 CRT 学力検査（年 1 回 1 月）
 県算数・国語診断テスト（年 1 回 2 月）
 県基礎学力調査

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

鳥取県中部地区学力向上推進協議会	平成 15 年 10 月 2 日
	平成 15 年 1 月 27 日
鳥取県教育研究発表会	平成 16 年 2 月 10 日
ホームページ上で研究活動の報告を予定	

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】	1 5 年度からの新規校	1 4 年度からの継続校		
【学校規模】	6 学級以下 1 3 ~ 1 8 学級 2 5 学級以上	7 ~ 1 2 学級 1 9 ~ 2 4 学級		
【指導体制】	少人数指導 一部教科担任制	T・T による指導 その他		
【研究教科】	国語 生活 体育	社会 音楽 その他	算数 図画工作	理科 家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	